

萩（離島含む）エリア

スポット

市役所玄関口のエラブユリ

・ 白いユリは友好と約束の証

・ 萩市では、フラワー都市交流として鹿児島県和泊町（わどまりちょう）から贈られた「エラブユリ」の球根をプランターに植え付け、育てています。花が咲くのは毎年、5月末～6月中旬頃。「純粹」「威厳」といった花言葉を持つ白いユリは、お互いを認め合う友好関係の象徴のようです。

【エラブユリのエピソード】100年以上昔のこと、島を訪れた貿易商アイザック・バンディング氏が、沖永良部に自生する白い百合に目をとめました。「この球根を大切に育ててください。必ず私が買い取りに来ますから」そう言い残して帰国した彼の言葉を信じて、島の農民は大切に百合の球根を育てました。そして数年後、約束通り島を再び訪れたアイザック氏は、農民たちが驚くような価格で百合の球根を買い付けたといひます。これがえらぶゆりの始まりといわれています。

出典：えらぶゆり地域活性化推進委員会（和泊町役場企画課内）https://erabuyuri.com/wps/?page_id=32

・ 期間：5月末～6月中旬頃・場所：萩市役所 正面玄関

フラワー都市交流連絡協議会とは・・・シンボル花をテーマとしたまちづくりを目指す都市（フラワー都市）の相互交流を通じて、加盟都市の各種産業、経済と教育文化の進行など、魅力ある地域づくりを目的としている。

萩市はツツジの花で平成14年から参加し、全国9都市で交流を行っている。

